

## 平成 22 年度 JICA 「アフリカ英語圏サブハラ理科授業評価改善」研修 [2010-C14]

この研修は JICA の要請を受けて平成 23 年 2 月 3 日より 2 月 23 日まで、サブハラ英語圏と呼ばれるサハラ砂漠南部 6 カ国の初等教育理科視学官 12 名を対象とし、本学柏原キャンパス A 棟実験室・図書館会議室・附属平野小学校・附属池田中学校等で行われたものである。研修を担当するに当たり、平成 22 年の 9 月に JICA 職員と意見交換し、東京学芸大学の JICA 数学研修を二日間にわたり視察しアフリカの情報を集め、プログラムの準備を始めた。JICA 側の要望は「学習者中心の授業」であったが、本学としてそれに加え「実験中心の授業」、「児童に考えさせる授業」の観点を加えた。また、JICA 側からアフリカは教材費がほとんどないとの情報を得ていたので、身近な素材を使って教材を作る方法についての授業も加えた。さらに附属小中学校および公立小学校の研究授業も見学できることとなり、研修員は、「アフリカには



ない教員研修制度である」とたいへん感動して見学した。また、授業後の教員との意見交換も好評であった。実地の授業や見学と共に、国立政策研究所が制作した理科授業ビデオを使った研修もまた、効果が大きいことが分かった。研修に関わった本学教員は向井康比己、任田康夫、中田博保、川村三志夫、神鳥和

彦（以上センタースタッフおよび兼任教員）、城地 茂、島 善信、中谷 克己、上島昌晃（附属平野小学校）、平田豊誠（附属池田中学校）等であり、その他に理科教育講座、自然研究講座の学生が記録係として協力した。コーディネーター（JICA 小路谷美沙氏、JICE 横江要子氏）の熱心な助言も助けとなり、大学教員とアフリカ視学官の間でかなりつっこんだ所まで意見交換が行われ、実り多い研修となった。23、24年度も引き続きこの研修が行われる予定である。

